

種名	<u>タイリクバラタナゴ</u> <u>Rhodeus ocellatus ocellatus</u> 
分類	コイ科タナゴ亜科バラタナゴ属
俗称	オカメ(関東)、タナゴ(観賞用の商品名、混称)
形態的な特徴	小型のフナに似るが、それをさらに横から押しつぶしたように側扁している。体高は高く、口ひげはない。繁殖期のオスは全体的に美しいバラ色の婚姻色になり、吻部には追星ができる。メスは体色が銀白色で背鰭に黒い紋がある。オスも若いうちはこの模様がある。近縁のニッポンバラタナゴとは本種が腹鰭の前縁が白いのに対し、ニッポンバラタナゴがそうでないので見分けがつくが、九州のニッポンバラタナゴには繁殖期に本種と同じく白い縁取りができる個体もいるので注意が必要である。
分布	原産国はアジア大陸東部と台湾島で、1940 年代初めに長江から移入されたソウギョ、ハクレンなどに混じり利根川水系に定着した。1960 年代初めに琵琶湖にも分布を拡大し、その後琵琶湖からのアユの放流により稚アユなどに混じって日本各地に分布を広げた。
繁殖行動	産卵期は3～9月で産卵母貝であるドブガイの鰓にメスが産卵管をのぼして卵を産みつける。
生息場所	平野部の浅い池沼や河川敷内の池、あるいは河川や灌漑用水路などの淀んだ場所に生息する。池沼などでは水際植物や、流れ込みのあるところなど、小川では一見水が動いていないような流れの緩やかな淀みに生息している。
食性	雑食性で、付着藻類や植物繊維質、小型の水生動物を食べる。
生息環境への配慮事項	ニッポンバラタナゴと近縁種である本種が日本各地に分布を広げたことで、本来日本に生息していたニッポンバラタナゴとの交雑がおこり、ニッポンバラタナゴの純系を維持することがむずかしくなっている。また、タナゴ類各種の生息環境は類似または隣接するため、河川環境の改変、単純化により二次的に他種との競合が起こりやすくなっている。本種が生息している水域には、産卵母貝となるイシガイ類の淡水二枚貝が生息していることから、外来種ではあるが、本種はタナゴ類の生息適地である水域の環境指標になりうる。
その他	
引用文献： http://www.maff.go.jp/nouson/mizu_midori/menu/main.html を改変	